

二代目広重「諸国名所百景 若狭かれむを制す」 大判錦絵 1860年(江戸時代)



若狭鰯は当時から名物として広く知られていました。遠近感を強調する大胆な構図の中、青々とした若狭湾を背景に土地の人が干し鰯をつくる様子が描き取られています。

北斎「諸国名橋奇覧 ちぜんふくみの橋」 大判錦絵 1833~34年(江戸時代)



北斎による揃物「諸国名橋奇覧」のうち、越前国(現・福井県)の九十九橋を描いた図です。半木半石の奇橋として、当時から人々の関心を集めていました。